

京都市市民活動総合センター平成28年度第2回 運営委員会 摘録

日 時：2016年11月21日（月）19：00～21：00

場 所：京都市市民活動総合センター ミーティングルーム

出席：小暮宜雄（京都橘大学現代ビジネス学部教授・学生部長） *敬称略

杉本星子（京都文教大学総合社会学部教授）

小嶋 進（公益財団法人京都オムロン地域協力基金事務局長）

高嶋加代子（NPO 法人京都コミュニティ放送企画室長）

菱川貞義（株式会社大広 275 研究所 所長）

平井嘉人（平井株式会社 代表）

日下田貴政（京都新聞社 人事・法務部 部長代理）

森野 茂（アルファトラベル株式会社 代表）

神田浩之（京都府府民生活部府民力推進課課長）

牧村雅史（京都市文化市民局地域自治推進室市民活動支援課長）

欠席：有川 真理子（NPO 法人環境市民 元事務局スタッフ）

大石 尚子（龍谷大学政策学部 准教授）

可児 卓馬（公益財団法人 京都地域創造基金 事務局長）

河西 実（NPO 法人フェア・プラス 事務局長）

福島 重典（京都御池税理士法人 代表・税理士）

宮川 知子（公益財団法人 京都市ユースサービス協会

京都市山科青少年活動センター チーフユースワーカー）

■次第

(1) 主催挨拶

(2) 座長挨拶

(3) 事 案

① 委員の辞任について

② 各種事業の進捗報告と今後の広げ方についてのフリーディスカッション

・市縁堂の開催について（資料1、2）

・ポータルサイトの運営状況（資料3）

・出張講座（資料4）

・機関誌「hotpot」のリニューアルについて（資料5）

(4) その他

・京都新聞でのコラム連載開始について

11月から2017年3月の第2・4水曜日

地域プラス面に掲載予定（12月はお休み）

<市縁堂の開催について>

- ・資料1と資料2(ちらし)に基づいて事務局より説明ののち、意見交換を行った。

(委員より)

- ・プレゼンテーションに登場する団体は、何を求めているのか?今回、プレゼンテーションを行う団体は、財政規模も大きく活動実績と一定の知名度もある。過去に市縁堂に参加した経験から言うと、プレゼン団体が求めるものとしみセンが求めるものとずれているのではないかという印象を受ける。
- ・会場に来るのは、どんな人達でどんな気持ちでくるのだろうか。

(事務局より)

- ・今回の市縁堂は、2015年度までとは基本的なスタンスを変えている。2015年度までの3回は、団体のプレゼンテーション力を向上するという、団体のエンパワーメントが主な目的だった。そのためにプレゼンテーションを磨くための連続講座を行い、その集大成としての発表会という位置づけだった。
- ・2016年度は、今後こうしたNPOや市民活動を応援する人を増やすための取り組みとして位置づけている。プレゼンを行う団体には、活動が一定の規模に達しており、またプレゼン力や社会からの共感度が高い団体を選んでいる。先進的に取り組んでいる団体にしみセンの事業に協力してもらい、NPO・市民活動団体を応援する雰囲気作りや活動の底上げと一緒に取り組んでいる、と考えてほしい。
- ・来場者には、これら団体のプレゼンを聞いてもらって、社会にある課題に気づいたり、さらに踏み込んで寄付という行動につながるとよいと思っている。市縁堂は、しみセンが従来の団体支援・プレーヤー育成だけでなく、応援者・寄付者育成や寄付する側のトレーニングを行うような役割を担うための事業という位置づけをしたい。
- ・関心がない人でも来てもらえるような工夫は必要だと思っている。昨年までの来場者は、プレゼン団体の関係者の参加が多かった。今年は、実行委員のみなさんの力も借りながら「動員型」で、これまでこうした活動に触れたことのない人たちにも来ていただけるような誘い掛けをしたい。運営委員のみなさんにも、その点での協力をお願いしたい。
- ・今後、寄付イベントとして拡大、定着していくための今年は新たな1年目。いくつものトライ&エラーがあると思う。それらを踏まえて、事業を育てていきたい。

(委員より)

- ・市縁堂は、過去の3回とも見てきた。昨年までは、ある意味初々しい、ビギナー系の団体が登場しており、表現はつたないけれど、聞いているほうは「がんばれ!」と思って思わず寄付する気持ちだった。これから巣立とう、活動を展開させようとする団体を応援するような、昨年までのような機会も別にあるとよいと思う。
- ・動員型では広報が大変になると思うが、どのような工夫をしているか。チラシは団体紹介があるがポスターにはなく、呼びかけが難しいように思った。ポスターはウェブに連動するような工夫があることは聞いてはいたが実際には目立ちにくい。新聞等も活用した広報も考えるとよいのではないか。ちらし配布先として、行政機関だけではなく、金融機関など待ち時間があるようなところにも置いてもらうとよいのではないか。

- ・ふるさと納税は、寄付すればリターンがある。税制優遇などですこし返金があれば、それをまた別のところに寄付をしようかと思うかもしれない。税制優遇などの制度の情報提供もしてくると、イベント後の継続的な支援や、出場団体に限らない支援、寄付のトレーニングにつながっていく可能性もあるのではないかな。
- ・大事なことをやっているところ、未来につながるような活動を応援するような仕組みに、市縁堂がなっていくといい。行く楽しみ、わくわく感があるようなイベントになってほしい。
- ・「びわこチャリティ 100 キロウォーク」は、今回 4 回目で、500 人定員のところ 650 人のエントリー参加費 15000 円から、必要経費を引いたものが琵琶湖保全のための寄付になる。京都でもこうしたことができるのではないだろうか。広報もあまり広くしていないが、どんどん広がっている。参加者は翌年ボランティアになるような動きもでている。こうしたことを例に市縁堂にも生かしていけるとよいと思う。
- ・演劇などでも、有名な劇団が行う舞台はチケット代が高い。でも、意外とビギナーの若い子たちは行く。私としては、先端的で安いものに参加してほしいと思うがなかなか行かない。おそらく、これは市縁堂の今回の考え方にも似ている。出演側は経験がある団体なので、見るほうがビギナーであっても見やすいのだと思う。見る側の人たちがこういうイベントで経験をして、さらにチャレンジングな寄付者になっていくのかもしれない。今回のようなものが初回にあって、登場側がビギナー系のものあとに来るとよかったのかもしれないが・・・。
- ・どのような人が来たか、どのような広がりになったかという情報収集をきちんと集められれば、マーケティング情報として次に生かせるのでは？

<ポータルサイトの運営状況について>

- ・資料 3 に基づいて事務局より、サイト運営状況に関してデータ面から状況を説明後、意見交換を行った。

(委員より)

- ・しみセン側が発信したい情報は充実し、見やすくなっていると思う。
- ・助成金情報がみにくい。検索窓が見つからず、助成金のページをすべて下に見ていく以外の検索方法が見つけにくい。
- ・最新の情報が一番上にきており、随時募集の情報が下のほうになってしまい探しにくい。また全国の助成財団のものが目立ち、地域特有の助成制度が見つけにくい。地域特有のものは上部に固定するなどの工夫が必要ではないか。
- ・理想的には、検索がなくてもストレスなく情報にたどり着けるのがよい。ただ、今はまだリニューアルをしたところなので、サイトを訪れた人がどういう検索の仕方、何に躓いているのかを知るためにも検索窓をわかりやすいところにおくのが良いだろう。
- ・新しいサイトの情報入力の方はどのようなものか。職員の負担になってはいないか。
- ・団体からの反応はどうか。

(事務局より)

- ・助成金情報の一覧性や検索の仕方に課題があるという意見については、検討すべき点と考える。地域特有の助成情報を上部に固定することについては、疑問がある。全国の助成財団のものも京都の団体が活用できるものが多く、情報を固定することのメリットが不明なため。
- ・情報入力については、団体自身が入力した情報をもとに、職員が整理しながら転記する方法をとっている。現在は、職員もシステムになれることが必要で少し時間はかかっているが、慣れ次第ではスムーズな作業が行えると思う。
- ・団体からは、作業が旧サイトよりも複雑になったことで作業面への問い合わせや意見と同時に見やすくなった、これからポータルを活用したいという意見と同時にもらっている。

<出張講座について>

事務局より

- ・資料4をもとに事務局より説明
- ・「初歩講座」として実施している講座を、2015年度から出張講座として実施中。しみセンで実施している講座だが、生涯学習的にも使ってもらえるように町内会やグループの勉強会などに出向いていく予定。年間5件を予定しているが、申し込みがあればさらに実施予定。ただ、申し込みはあまり多くなく、広げ方についてのアイデアをいただきたい。

(委員より)

- ・現在のタイトルでは、どんな内容の講座で何をすることができるのかがわかりにくい。
- ・地域では今、行政からまちづくり協議会の設立を促される傾向があり、自治連合会や地域の人たちはどうすればいいかわからず困っているところも多いはず。そうしたところにニーズはあると思うので、そこに届くタイトルにしていくことは大事。
- ・タイトルが漠然としているので、聞く側のどのような悩みが解決されるのかがわかりにくい。昨年度と今年度の実施例から、聞きたい側のニーズをうまく整理して発信に活かしてはどうか。
- ・市のまちづくりアドバイザーが地域で活動しているなかで、そうしたニーズを聞いたり、講座の開催を地域に呼び掛けてしみセンとつなぐようなことはないのか。

<hotpotの拡大・普及について>

(委員より)

- ・現在の設置場所一覧を見ると大学関係が以外に少ない。大学生もこうした活動の重要な対象だと思うので、大学関係の設置場所を増やしてみたらどうか。
- ・しみセンの対象として大学や大学生は、どのような位置づけか？出張講座なども大学でのニーズはあると思うが、hotpotに限らず対大学戦略はどのようになっているか。

(事務局より)

- ・大学に対して戦略的な取り組みが、現状できているわけではなく、特定の事業や単発での連携が主となっている。

- ・ボランティア活動については、学生 PLACE と連携して行っている「学生ボランティア・チャレンジ！」というプログラムで、団体の協力を得ながら、大学生のボランティア体験を進めている。このプログラムは、毎回定員を超える応募がある。
- ・京都市内でボランティアセンターを持つ大学については、大学内で行われるボランティアフェスティバルに出展依頼があり、学生に対してボランティア情報の提供や団体とのコーディネートを行っている。
- ・特に交流がある大学教員には、地域課題にもとづく活動とゼミをコーディネートした事例も 2015 年度にはあった。
- ・これまでの hotpot は、関心のある人が読むとさらに関心が深まるような編集方針だった。今年度の編集方針としては、たとえ関心がなくても気軽に手をとってもらって、よく読むとそのなかに社会課題が書いてある、という仕掛けにしたいと考えている。
- ・しみセンは、これまで活動する人を支援したり、プレーヤーを支えることにウェイトを置いてきた。これからは、それに加えて「活動する人を支援する人」をどう増やしていくかにもウェイトを置きながら、NPO の活動が市民によって支えられる社会の実現を目指したい。

<その他：寄付について>

- ・これまでに NPO に寄付した経験はないが、菩提寺や八坂さん、山鉾町など、地縁に基づいたお金はこれまでたくさん出してきた。そういうことは、失われてきているようにも感じる。NPO 法人ではない NPO へのお金の動きも少なく、運営が難しい状態になっている。
- ・日本人が寄付をしないのではなく、行政がお金を出さないものには、日本人だってお金をだしていると思う。ただ、今の NPO の活動では、行政っぽいことをしている NPO が多く、NPO への寄付の必要性を感じにくくなっているのかもしれない。
- ・行政のお金がでないことやコミュニティを守るといふことにお金を出す仕組みや、そのトレーニングも従来のコミュニティの中には含まれてきたのかもしれない。

以上